

全世界での心臓血管病の重荷

Global Burden of Cardiovascular Disease (GBD)

GBD 研究 2010 に関して学術誌ランセットに 7 本の論文が発表された。この研究には松森も参加したが、多くの主要疾患の原因と分布を記載するのに、これまでにない努力がなされた。その要旨は、感染症、母子疾患、栄養失調は 20 年前に比べ減少したが、がんおよび心疾患などの非感染性疾患（NCDs：Non-Communicable Diseases）による死亡が主要なものとなったということである。研究者らは、多くのデータを集めて分析し、身体障害を持って生きる年数、損失余命、死亡と身体障害で補正した生存年数をモデル化した。2010 年、高血圧、喫煙、飲酒、野菜・果物の摂取不足の 4 つが、成人の慢性病とくに心臓血管病の原因であることが認識された。

2010 年、全世界で 5, 280 万人の死亡のうち 2 大死因は虚血性（動脈硬化性）心疾患 13.3%、脳卒中は 11.1%であったが、この 20 年で両疾患による死亡は全死亡の 5 分の 1 から 4 分の 1 に増加した。また、損失余命は虚血性心疾患、脳卒中はそれぞれ 28%と 17%増加し、損失余命の第 1 位と第 3 位を占めている。心房細動（粗動）による死亡は 233.9%増加した。

GBD 研究 2010 は多くの疫学データを提供している。人々の健康を増進する政策は、主要な病気の重荷の原因を対処すればさらに有効であることが示唆され、大きな危険因子（リスクファクター）が少しでも減れば、かなりの健康増進が得られる可能性が示されている。なお、本研究はビル・ゲイツ財団の支援を受けたものである。

（出典：Lancet 2012; 38: 2071-2094, 2095-2128, 2129-2143, 2144-2162, 2163-2196, 2197-2223, 2224-2260）